

上智大学グリークラブ OB会ニュース

2005年度 第1号

2005年9月23日発行

会長挨拶

佐野 鑛治 (昭和39年卒)

「悲しいお知らせがあります」とディエス神父様の訃報を上智グリーYahoo-Groups メーリングサイトに載せたのは8月1日のことでした。多数の方々、海外からも驚きと悲しみの言葉を寄せてくださいました。新納名誉会長から、訃報と同時に大学の教職員主催の追悼ミサが10月には予定されていること、又その折に一人でも多くのグリーメンが参列するように、そして許されるならばミサ曲の一部でも捧げられたら・・・とのお話がありましたのでそのことも「悲しいお知らせ」でご報告致しました。

その後、最近何人かの方からメールを見ていないOB会員の方々にこの訃報をお伝えしなくて良いのかと意見が寄せられ、臨時OB会ニュースを取り急ぎ発行し、改めてOB会員全員にディエス神父様との悲しいお別れをお伝えすることに致しました。

遅くなりましたことお詫び申し上げます。

尚、デュオパ荘厳ミサ全曲演奏の企画については、10月初頭にOB会ニュースで新たな提案をすべく、池田実行委員長が進めています。

本年は特に変化が激しいと感じておりますが、OB会活動へ一人でも多くの皆様が参加して下さることをお願いいたします。

ディエス神父様 追悼ミサ日程の件

9月23日現在、大学が夏休み中のため、日程決定されておられません。10月初頭には決定される見込みです。分かり次第、早急にご連絡いたします。連絡方法は、原則Eメール、お持ちでない方はFAX/TELで対応いたしますので最終ページに示す方法にてOB会員皆様から登録をお願いします。

9月4日付 カトリック新聞 抜粋

マヌエル・ディエス神父 (上智大学名誉教授、イエズス会) 7月28日、入院中のスペイン・マドリードの病院で逝去。80歳。1924年スペイン生まれ。43年同会入会。51年来日。58年司祭叙階。60年最終誓願。上智大学外国語学部イスパニア語学科長、同大学イスパニアセンター所長、上智学院経理部長、同厚生部長、同財務部長など、上智学院関係の要職を歴任した。歌が大好きで日本の歌に詳しく、いろいろな機会に美しい声でよく熱唱した。中でも「長崎の鐘」はお気に入りだった。「日本人とキリスト教のために命を懸けたい」と常々、周囲に語っていた。

追 悼 の 声

先生方、OB 諸兄からお言葉を多数頂きましたが、特にディエス神父様と関わりの多かった方々からの声をお届けします。紙面の都合上、一部しか掲載出来なかったことお許し下さい。

顧問指揮者 北村協一先生からのメッセージです

ディエス神父様がお亡くなりになった事、とても残念で仕方ありません。グリーの事を何時も我が事のように気遣われて下さいました。そして、いかにもスペインの空の青さと大地の赤さを思い出させる、透明感のあるテノール。藤山一郎の一本気な歌と違って、メロディーの伸びの中に、小節の中に熱い心を乗せて歌ってくれた「長崎の鐘」。それはディエス神父様の笑顔と共に頭の中をメロディーが小気味よく鳴り渡ります。大好きだった神父様。安らかな眠りをどうぞ。

昭和45年卒 外西 淡野保昌さん

私にとってディエス先生はグリークラブの顧問であり、学生生活後半ではイスパニア語学科の担任でも大変お世話になり、またご迷惑もいっぱい掛けてしまいました。

大学に入学して、初めてのドキドキ授業にのぞんだ時、授業前の廊下ですでに名前を掛けられたのには、大変驚かされました。

イスパニア語学科でのディエス先生は、出来の悪い私にとっては、大変厳しい、眼が鋭く、怖い先生でしたが、何故か、グリークラブの顧問としての先生は、暖かい眼の優しい笑顔の先生でした。「そんなに音楽が好きなのだから、音楽の仕事に就きなさい！」と、私の現在を決断して下さいのも、先生の一言のお陰です。

先生の鋭い眼と、優しい笑顔は、今までもこれからも私の中に生き続けていくでしょう。

長い間、ご苦労様でした。ゆっくり休んで下さい。

いっぱい、ありがとうございました。

昭和43年卒 外西 渡辺智紘さん 「ディエス先生のこと」

Silencio!! (静粛に!)

良く通る高いテノールの声が教室に響いた。昭和39年(1964)ディエス先生との出会いだった。厳格で怖い先生、がその第一印象だった。

事実、学内で見かける先生は真っ直ぐ前を見て一直線に歩き、わき目も振らない。

教室に入るとカギを下ろし遅刻した学生は教室に入れない。怖い怖い先生だったのです。

でも、そうか、あの頃先生は39歳だったのか、と今しみじみ思い起こされるのです。

後年、その怖い先生に自分が、2度に涉って結婚式をお願いするとは思いませんでした。

先生は1925年(昭和元年)生まれで、日本流でいうと享年80歳ということになり、まさに昭和の歴史そのままを生き抜いたこととなります。先生が昭和という時代をどのように感じていたのか聞いてみたかった。

日本に赴任したのは26歳の時と聞いたが、昭和26年、戦後日本の焦土に立って若きディエス神父は何を思ったのか、残念ながらこれも知るよしもありません。

いつのことからか、先生はグリーの演奏会に来てくれるようになりました。おそらく、学生寮のグリー部員が先生の歌好きを知って誘ったのだろう。

1967年、私が4年の定演でカンツォーネ「カタリ」のソロを終えた時、先生は舞台裏に来て、Qubonita puronunsiacion！（なんと美しい発音であることか）と握手を求められた。私には、歌はともかく言葉、発音は良かったよと聞こえたのだった。

しかし、遅刻締め出しの劣等生にとって救われる有難いお褒めの言葉だった。

それから、先生に対するイメージが180度変わった。なんて穏やかで、やさしい先生なんだろうと。何よりも、グリーの演奏会には必ず来てくれて、最後まで付き合ってくれる。

請われるままに、「エストレリータ」、「グラナダ」そして「長崎の鐘」を見事なテノールで謳ったあの歌声は今でも彷彿と蘇えり、こののちも消えることはないだろう。

さて、ディエス先生を語ることは、恥ずかしながら自分史を語ることになります。

卒業後、私が先生を訪ねたのは7年後（1974年）だった。

結婚式は教会でと決めていた私は、迷わずディエス先生に司祭をお願いしたところ、快く引き受けていただいた。

目の前で教会の申込書を記入した時、司祭マヌエル・ディエスと書くところを、愚かにもエマヌエル・ディエスと誤って書いた。先生はやや顔を赤らめ、おどけたしぐさで「私は女ではないんです」というような事をスペイン語で口ごもられた。

スペイン語劣等生の私はどこまでも恩師を落胆させる。

12年の結婚生活で3人の子供を授かり私も妻も39歳でこれからという時に妻がガンで他界した。葬儀を先生には連絡しなかったが、その後報告した時に、なぜ知らせてくれなかったのかと、強い語調で言われた。「私は仏式の葬儀にも行きます」と。

生生流転。時は流れて、

縁を得て2度目の結婚となった時、新妻は教会で式を上げることが希望。日取りはその年の12月と決めた、だが教会が決まらない。そこで横浜山手地区の教会を週末毎に歩き回った。しかしほとんどの教会が1年待ち、時間のないさしせまった中年カップルには不向きであった。ある教会では、「結婚を何と思っているのか」とお説教されるに至り、いよいよ横浜での挙式は断念し、意を決して再度ディエス先生を訪ねました。

罪深い教え子をお許してください。

だがしかし、先生は2度目の司祭も快く引き受けて下さった。

曰く、あなたは大丈夫です。離婚の場合は駄目です。

最近は何賀状も途絶えがちで気になっていたところでした。悔やまれる気持ちでいっぱいです。さよなら、ディエス先生。私たちはあなたを忘れません。

メールアドレスを教えてください！

OB ライフ実行委員会からのお願い

ディエス神父様追悼ミサの詳細連絡や、臨時OB会ニュースの発行などを行い会員双方のコミュニケーションを円滑にしてゆくため、メールアドレスをご連絡下さい。なお、あわせて会員名簿の更新も計画しておりますので、近況も合わせてご教示下さい。

1. 記載希望内容

- ①卒年
- ②住所変更ある方は新住所
- ③現役時代のマネージャ役職（学指揮、音メン、渉外、内政、ステージマネ、チーフマネ、部長 etc
- ④その他、近況、メッセージ

2. 返信先

・E-mail をお持ちの方は、宛先 **sophiaglee@yahoo.co.jp** (管理者 上智グリーOB会)

・お持ちでない方は、以下のいずれかに FAX もしくは郵送でご返信をお願いします。

FAX 03-3950-4350 (金子チーフマネージャー自宅)

FAX 0551-38-3510 (佐野会長自宅)

郵送 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-27-6-302 広報 亀田宛

上智グリーのメーリングサイトです！ OB 同士のスピーディな情報伝達・交換の場として活躍中です。



<http://groups.yahoo.co.jp/group/sophia-gee/>

(編集) 広報兼名簿担当 亀田利孝 (kamedats@aol.com) TEL(自宅) 045-913-4059